



RED NOSE DAY ～1万人の笑顔大作戦～

2009 レポート

「8月7日は笑顔を贈る日です！」

<http://www.akaihana.jp>

RED NOSE JAPAN PROJECT 実行委員会



RED NOSE DAY ～1万人の笑顔大作戦～ REPORT

2009年4月、RED NOSE JAPAN PROJECT実行委員会を設立し、入院中の子どもを支援するチャリティイベントとして、「RED NOSE DAY～1万人の笑顔大作戦～」を開催しました。

開催趣旨に全国各地の人達が賛同してくれ、毎日のように、全国からRED NOSEの注文やあかいはな写真（ホームページにてRED NOSEをつけた写真を募集しました）が寄せられ、1万人の笑顔大作戦を達成し、大盛況のうちに開催することができました。



A Smile Makes You Happy!



都道府県別ベスト10

- ① 大阪府
- ② 滋賀県
- ③ 兵庫県
- ④ 東京都
- ⑤ 富山県
- ⑥ 静岡県
- ⑧ 北海道
- ⑨ 岡山
- ⑩ 神奈川県



AKAIHANAアルバム

当日に向けて、RED NOSE DAYに参加したい、応援したいという人たちが参加の意思表示できる場所として、RED NOSEをつけた写真を投稿してもらう企画をホームページ上で行いました。当日までに全国各地から楽しさやユーモアあふれる写真が多数寄せられ、ムーブメントを盛りあげてくれました。また、当日にはリアルタイムで更新できる当日用のアルバムページも作成し、カウントダウン後のみなさんで楽しんだ様子を撮影した写真の投稿が寄せられました。

アルバム投稿者数： 約500名



関連イベント

全国で10イベントの関連イベントが開催されました。(うち当日イベントは8)

実行委員会では、事務局のある地域の海遊館・天保山マーケットプレース(海遊館：関西最大級の水族館)の協力のもと、海遊館カウントダウンイベントを開催しました。

<海遊館カウントダウンイベント>

日程：2009年8月7日(金) (RED NOSE DAY)

会場：海遊館 天保山マーケットプレース

(大阪市港区海岸通1)



カウントダウンイベントには、その日会場で初めて「RED NOSE DAY」を知って当日参加した人や、事前の広報を見て来場した人、近隣の協力団体や協力店の方たちなど多数の方たちが集まりました。マーケットプレース内の出店店舗もチャリティイベントの説明をすると多くの方が賛同してくれ、海遊館・天保山マーケットプレースのスタッフの協力のもと、カウントダウンイベントを実施することで、広く知ってもらう機会になりました。(毎日新聞社、朝日新聞社、日経新聞社の3社から取材を受け翌日の新聞に掲載)

当日カウントダウンに参加された方たちの、RED NOSEをつけた瞬間の心からの笑顔が印象的でした。



各地から届いた声

RED NOSE DAYの感想など全国各地から報告が届きました。「地域のお店が楽しみを感じてくれて、お店をあげて広めてくれた」「疎遠になっていた友人と久しぶりに楽しむきっかけになった」「新しいネットワークが築けた」など、地域や職場で、それまでにはなかった新たなネットワークや豊かな関係を築くことができたこと、そして、それを楽しみながらできたことの喜びの声や心温まる物語が全国から寄せられました。



メディア

当日のイベント、また開催当日に向けて、多くのメディアでRED NOSE DAYを取り上げてくれました。また、エリアサポーター、グループサポーターが地元のメディアへの広報を担当し、地域での新聞やテレビなどの取材を受け、広報に協力してくれ、全国的な広がりにつながっていきました。



実行委員会・サポーター体制

日本クリニックラウン協会の事務局長が発起人となり、関係者や関心ある方に広く呼びかけ、医療関係者や大学の名誉教授、学生、地域活動に関わっている方などさまざまな分野の方々が参加しています。またRED NOSE DAYに協力・賛同してくれる団体・グループを広く一般に募集しグループサポーター、エリアサポーターとしてそれぞれの所属している場所や地域などでRED NOSE DAYを周知してもらうために積極的に活動してくれました。

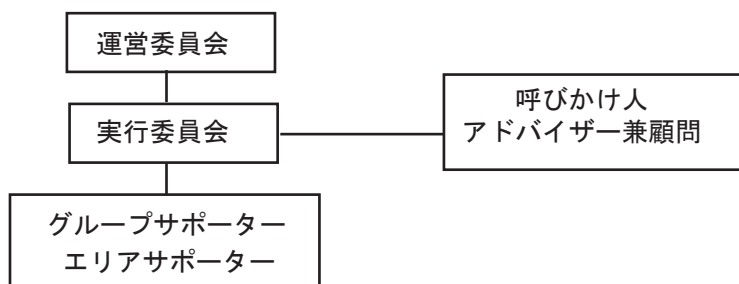
また、RED NOSE DAYの販売協力店舗やチラシ設置協力店など、それぞれの地域で一般の方がチラシやRED NOSEを身近で手にとれる場所として協力してくれました。



■ RED NOSE JAPAN PROJECT 実行委員会体制（2009年度）

運営委員長	河 敬世(大阪府立母子保健総合医療センター 病院長)
実行委員長	塚原成幸(特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会 事務局長)
実行委員会会計	熊谷恵利子
広報	柴田俊久
呼びかけ人	加瀬清志(日本記念日協会 代表)
アドバイザー兼顧問	村上和雄(筑波大学名誉教授)
	大田 堯(東京大学名誉教授 日本子どもを守る会名誉会長)
	土井章弘(岡山旭東病院 院長)

■ RED NOSE JAPAN PROJECT 実行委員会組織図





2009年度 RED NOSE JAPAN PROJECT 決算 (2009年9月25日締め)

<収入内訳>

	金額
収入計 (9,102個)	2,730,600
寄付金	36,003
総収入額	2,766,603

<支出内訳>

科目	摘要	金額
原価費用	レッドノーズ原価	798,000
事務消耗品	発送梱包資材・インク・封筒	65,777
通信運搬費	宅急便・メール便代	42,630
広報費	ホームページ・チラシ制作費など	257,670
寄付金	4団体への寄付	590,000
来年度準備金	原価費用・広報費・運営費など	1,012,526
計		2,766,603



RED NOSE 販売収益と今後の展開について

RED NOSEの購入費用（1個300円）はチャリティーを兼ねており、その収益は入院中の子どもたちの療育環境改善に使われます。2009年度のRED NOSE の収益は、主に2010年度のクリニックラウン派遣費用に充当される他、入院中の子どもを支援している団体へ寄付を行いました。（寄付先の詳細は次ページ参照）

現在、日本において入院中の子どもの支援を目的とした基金や助成金は少なく、各団体が独自に行っている現状にあります。将来は、「赤い羽根募金」ではなく「赤い鼻募金」のチャリティーイベントとして入院している子どもを支援している団体や個人を対象に、広くその収益を分配していけるよう取り組んでいきたいと考えています。

RED NOSE DAY 終了後も、新聞記事を見た方やホームページから RED NOSE が欲しいという要望があったため、実行委員会にて継続して販売を行ないました。（次年度収入へ）



2009年度の寄付先について

今年度は、入院しているこどもの支援をしている下記の4団体に寄付をいたしました。

【財団法人 がんの子供を守る会】 <http://www.ccaj-found.or.jp/>

患者とその家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく患者とその家族が中心となり、医療関係をはじめとする多くの方々の支援のもとに活動をしています。

療研究助成事業等を中心に専門医師・研究者への助成・協力の実施、専門のソーシャルワーカーによる相談、宿泊施設の運営管理、患者家族が治療にのぞむとき、あるいは治療後社会で生活していくとき周囲の理解や協力が得られやすいよう、啓発活動を通じた、社会に向けて小児がんの正しい理解を広める活動などを行っています。

【特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス】 <http://www.kemohouse.jp/index.html>

わずか2坪の空間。小児がんの子どもたちは、この狭い空間で半年以上、病と闘いながら、心身ともに成長しなくてはなりません。NPO法人チャイルド・ケモ・ハウスでは、小児がん患児が安心して化学療法（抗がん剤治療）を受けることのできる専門施設を設立する準備を進めています。

まず、30床程度の入院施設を建設し、大阪大学医学部附属病院をはじめとする関西の医療機関と連携して、小児がんと診断された患児の化学療法を行います。入院経験のある患児や家族の意見を取り入れて、病棟のアメニティを向上させるほか、病棟内での子どもの発達と化学療法中特有の心身の状態をサポートする専門人材の育成に取り組みます。将来的には、ここでの経験をモデルとして、同様の施設が全国にいくつか設立されることで、小児がんになったすべての子どもが笑顔で家族と共に治療を進めることのできるような環境作りを目指したいと思っています。

【特定非営利活動法人 SIDS家族の会】 <http://www.sids.gr.jp/>

赤ちゃんの死は、両親にとっても誰にとっても予測のできない突然の出来事です。そしてそれは、両親をはじめとする周囲の多くの人達に、深刻で複雑なショックをもたらします。

SIDS家族の会は、SIDS（乳幼児突然死症候群）やその他の病気、また死産や流産で赤ちゃんを亡くした両親を、精神的な面から援助するためのボランティアグループです。SIDS家族の会は、子供を亡くした親自身によって運営しています。また、その活動の主旨を理解している医療関係者に、支援をしてもらっています。

オーストラリア国内において、RED NOSE DAYキャンペーンを実施しており、その収益をすべてSIDSに関する知識や啓発のために使用し、大きく成果を上げています。日本国内においては、赤ちゃんを亡くした家族への精神援助、SIDSなどに関する知識の普及、SIDSなどに関する研究活動への協力を行っています。

【特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会】 <http://www.clinicclowns.jp/>

日本クリニックラウン協会はクリニックラウン（臨床道化師）を小児病棟に派遣し、入院しているこども本来のチカラを取り戻し、笑顔になる環境を創るために活動しています。

クリニックラウンは、優れた表現者であると同時に、こどもとの接し方、こどもの心理、保健衛生や病院規則にも精通したスペシャリストです。クリニックラウンは豊かなコミュニケーションと愉快なあそびを通じて、こどもたちの心に寄り添います。

現在、全国16箇所の病院を定期訪問しており、年間のべ約7000人のこどもたちと関わっています。

今回の寄付金は来年度のクリニックラウン派遣費用として、全国15箇所の定期訪問先の訪問派遣費用の一部としてとして充当させていただきます。



RED NOSE JAPAN PROJECT 実行委員会
〒552-0021

大阪市港区築港2-8-24 piaNPO 401-d

（特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会内）

TEL:06-6575-5592 FAX:06-6575-5593